

登山道の荒廃状況等調査について

環境省九州地方環境事務所

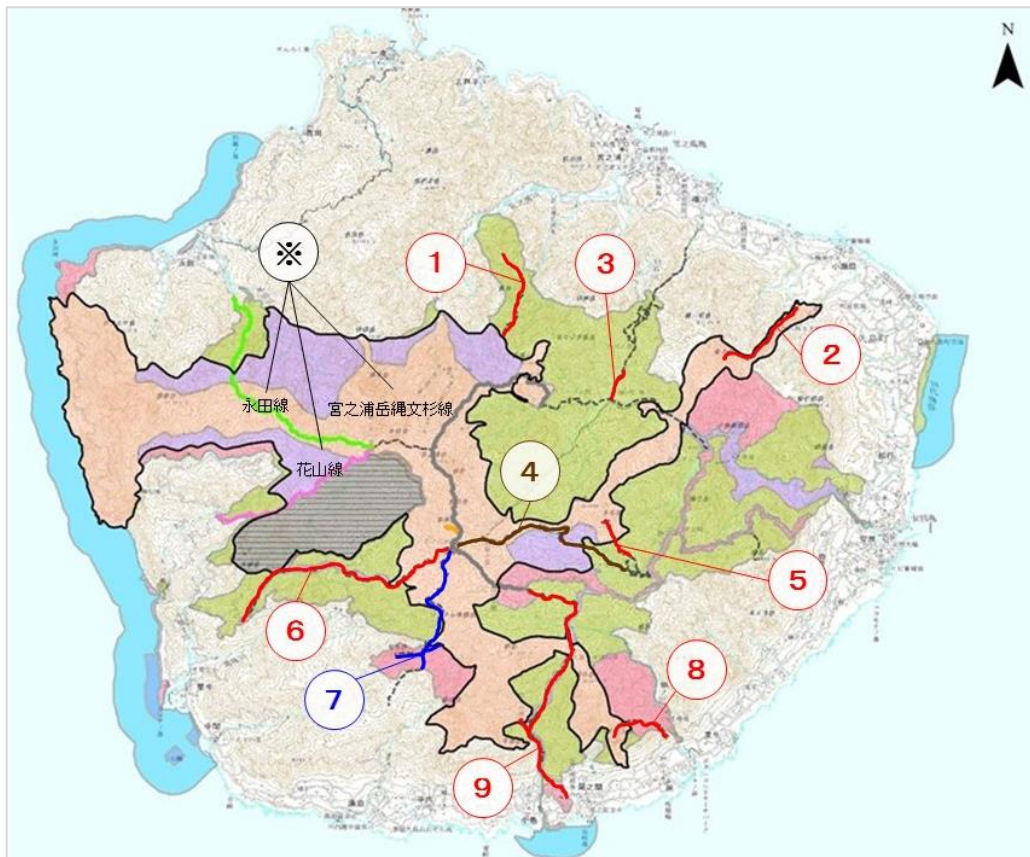
1. 調査概要

(1) 調査対象路線

- ① 龍神杉線
- ② 愛子岳線
- ③ 楠川線（辻の岩屋・楠川分かれ）
- ④ 花之江河・ヤクスギランド線
- ⑤ 太忠岳線
- ⑥ 栗生線
- ⑦ 湯泊線
- ⑧ モッチョム岳線
- ⑨ 尾之間線

計 9 路線

※永田線、花山線、宮之浦岳縄文杉線（淀川登山口・大株歩道入口）は昨年度実施済み。



(2) 調査方法

調査対象9路線について現地踏査を行い、登山道の現況把握を行った。調査は、平成24年度調査と同様の方法で実施した。

表 調査方法

調査区分	調査内容	調査方法
現地での 確認事項	地形	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道の傾斜の状況について記載する。 ■ 登山道が設置されている位置（尾根、谷）について記載する。
	植生	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道周辺の植生について、「ガレ場・岩場」「草地」「湿地」「低木林」「高木林」に大まかに区分して記録する。 ■ 踏み込み等により植生の荒廃が見られる箇所を記録する。
	土壌	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道及びその周辺の土壌について、「岩盤」「砂礫」「粘性土」「人工土・木道」に区分して記録する。
	路面の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浸食の状況について、雨水の流下状況の痕跡等が確認された場合は記録する。 ■ 歩道の複線化や拡幅の状況を記録する。
	荒廃のパターン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道の荒廃が顕著である箇所について、傾斜の程度等の地形の特徴、巨岩や転石の分布状況、風化の有無、崩壊跡の有無といった主な荒廃要因を記録する。
	周辺の石材の有無	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道周辺に、石組み工に使用可能な石材の分布状況について確認する。
	設置されている主な施設及びその状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道に設置されている主な施設（木道、木製階段等）について記録する。 ■ 登山道沿いに設置されている標識について、位置をGPSで記録し、写真を撮影する。
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査実施時の登山者のすれ違い人数をカウントする。
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 路面の荒廃の状況について、三段階程度に区分して評価を行う。
浸食状況調査の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 登山道において雨水による浸食の影響が見受けられ、対策の緊急性が高い箇所については、雨水の流れについての詳細調査実施の候補地点とする。 	

(3) 調査結果

調査結果は、現在とりまとめ中で次年度報告予定。

なお、調査結果は、昨年度調査結果も併せてとりまとめ、過年度調査結果との比較等を行い、

■「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」での登山道のランク分け（ゾーニング）の検討

■荒廃箇所対策等の必要性や実施優先順位の検討
に用いる予定。

